

高専制度創設50周年記念シンポジウム および式典を開催

50周年記念実行委員会委員長 京兼 純

高専制度創設50周年記念シンポジウムと式典は、国公立高専の共催で平成24年10月30日(火)、一橋講堂において産業界や高専関係者など500余名が参加し、盛大に挙行されました。

記念シンポジウムの記念講演では、東京工業大学元素戦略研究センター長・細野秀雄教授から「新材料研究の醍醐味：オールオアサムシング」と題した講演が行われ、自身の研究の原点である「ものの考え方」は、東京高専時代に出会った恩師である宇井倬二先生(沖縄大学名誉教授で環境・公害研究者・宇井純氏の弟)の薫陶のお蔭であるという言葉が印象的でした。また内容は、多種多様なセメントのこと、鉄化合物系超伝導体の話、今話題となっているS社の化合物薄膜素子(IGZO:インジウム・ガリウム・亜鉛酸化物の頭文字)などであり、時にユーモアを交え学生にもわかりやすい口調での講演でした。

記念シンポジウムのパネル討論では、木谷理事がモデレータとなって、一般社団法人日本技術者教育認定機構・木村孟会長、デュポン株式会社・天羽稔代表取締役社長、株式会社jig.jp・福野泰介代表取締役社長、文部科学省・坂東久美子高等教育局長を迎え、「社会・経済のグローバル化のなかで、これからの高専教育に期待するもの」をテーマにした討論を行いました。4人のパネリストからは各々の立場と視点から、これからの50年にむけて高専が果たす役割と人材養成について、熱く語っていただきました。

引き続き、田中眞紀子文部科学大臣(当時)をはじめ、海外協定校(シンガポール・タイ・台湾・香港)など多数のご来賓のもと記念式典を挙行し、国公立高専を代表して小畑理事長から「進化する高専」をキーワードにした式辞がありました。その後、場所を如水会館へ移し、祝賀会と学生交流会を実施しました。祝賀会では文部科学省・森口泰孝事務次官、公立高等専門学校協会・荒金善裕会長(都立産技高専・校長)、シンガポール・テマセク・ポリテクニク・ブー校長等の挨拶ならびに日本私立高等専門学校協会・神野稔会長(近畿大学高専・校長)の乾杯の発声で会が始まり、弦楽演奏や高専広報ビデオ上映など趣向のこらした祝賀会となり、立錫の余地もないほど大盛況のうちに終了しました。



▲記念講演の様子



▲パネル討論でモデレーターを務める木谷理事



▲パネル討論の様子



▲祝賀会の様子

高専制度創設50周年記念学生交流会 報告

報告 東京高専 三谷 知世教授

高専制度創設50周年記念行事の一環として、全国の国公立高専の学生による学生交流会が開かれました。56高専から各校を代表する61名の学生が集まりました。記念シンポジウムおよび記念式典に参加した後、如水会館2階ペガサスの間に場所を移し、学生主導で行われました。

司会進行は東京高専学生会長の新山徹君が務めました。立食形式の中、3名のゲストスピーカーの話を中心に交流が進みました。サレジオ高専出身の奥山耕平さん(現在:キング通信工業株式会社勤務)は、高専時代、大学院時代の経験が技術者の仕事に生きていることを話されました。東京高専専攻科2年の大川水緒さんは、イマジナカップ世界大会2012での準優勝の際の苦労と喜びを話されました。都立工業高専出身の中川雅貴さん(現在:電気通信大学生)は高専時代ロボカップに連続出場して好成績を修めた経験が話されました。3人に共通するのは、高いモチベーションを持ち続けて高専時代を過ごしたことです。その熱い思いが出席した学生にも伝わり、活発な質疑応答で会場が盛り上がりました。

開会および閉会の挨拶は会場からの挙手で決めましたが、積極的な協力がありました。高専生らしい真面目さと明るさに溢れた、50周年記念にふさわしい交流会になりました。



▲開会の挨拶をする鳥羽商船高専学生会長の上野珠あきさん



▲参加者全員で記念撮影

昭和37年度設置校における 創立50周年記念式典の開催状況

高専名	式典開催日	式典会場
新居浜高専	平成24年4月21日(土)	新居浜市市民文化センター
長岡高専	平成24年6月2日(土)	ホテルニューオータニ長岡
旭川高専	平成24年10月5日(金)	旭川高専体育館
宇部高専	平成24年10月10日(水)	A N Aクラウンプラザホテル宇部
函館高専	平成24年10月12日(金)	函館市民会館
福島高専(旧・平高専)	平成24年10月20日(土)	いわき芸術文化交流館アリオス
沼津高専	平成24年11月1日(木)	沼津市民文化センター
鈴鹿高専	平成24年11月3日(土)	鈴鹿市民会館
佐世保高専	平成24年11月11日(日)	アルカスS A S E B O
群馬高専	平成24年11月17日(土)	前橋マーキュリーホテル
明石高専	平成24年11月17日(土)	明石市立市民会館
香川高専(旧・高松高専)	平成25年1月26日(土)	サンポートホール高松

Imagine Cup 2012 世界大会で第2位

報告 東京高専 小嶋 徹也准教授、沖縄高専 松林 勝志教授

平成24年7月6日(金)から10日(火)までシドニーでImagine Cup 2012 世界大会が開催され、国内予選で優勝し日本代表として出場した東京高専のチームCoccoloがソフトウェアデザイン部門で過去最高となる準優勝となりました。メンバーは専攻科2年の大川水緒さん、田畑愛実さん、赤松駿一君にマレーシアからの留学生タン・トゥンジェ君を加えた4名です。同大会はITのオリンピックと呼ばれ、180を超える国と地域から35万人以上の学生が参加する世界最大のITコンテストです。

作品は可視光通信を用いた省電力照明システム「All Lights!」。天井に取り付けられたLED照明ですが、照明の光のみを用いてデジタル通信ネットワークを構築します。このネットワークを通して、各照明のセンサから明るさ情報を集約し、各照明に点灯する明るさを指示することでインテリジェントな節電を実現します。決勝のプレゼンテーションは超満員の会場で行なわれ、序盤から観客の目を釘付けにし、終盤ではBGMに合わせて会場から手拍子が上がりました。

主催者側関係者から、目的意識の強い高専生だからここまでできた、と評価されるほどでしたが、彼らの姿は全国の高専生に自信や勇気を与えたことと思います。



▲デモンストレーションで質問に答えるメンバーたち



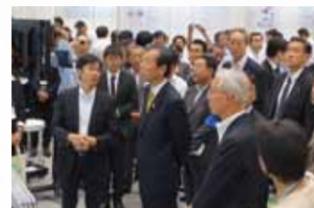
▲表彰式終了後、会場にて。左から大川さん、赤松君、小嶋准教授、田畑さん、タン君

イノベーション・ジャパン2012 ー大学見本市に出展

国立高専機構では、平成24年9月27日(木)～28日(金)に東京国際フォーラムで開催された「イノベーション・ジャパン 2012ー大学見本市」(主催:独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)に参加・出展しました。このイベントは、日本国内の大学等で生まれた研究成果である「知」を産業界に発信し、イノベーションを図ることを目的としています。

9回目を迎える今年は、情報通信/ライフサイエンス/医療/装置・デバイス/ナノテクノロジー/環境保全・浄化/低炭素・エネルギー/マテリアル・リサイクル/シニアライフ(高齢社会)/防災の計10分野に、300を超える大学・研究機関等から最新のシーズが出展され、国立高専機構からは、本部および16高専による17ブースで最新の技術シーズを展示・紹介しました。

両日とも平野博文文部科学大臣(当時)が視察され、高専ブースでは、北九州高専・久池井茂准教授の展示ブースにおいて10分程度にわたり質疑応答が交わされました。また、科学技術振興機構の展示ブースでは、高知高専・秦隆志准教授の研究成果であるマイクロバブル技術に関し、企業との事業化が紹介されるなど国立高専における研究成果を大いにアピールできました。



▲ロボット制御技術を活用した医療用安全安心システムについて北九州高専・久池井准教授の説明を受ける平野文部科学大臣(当時)



多段バイオディーゼル燃料合成プロセス」国立高専機構本部で来場者に説明する一関高専・福村准教授

【分野別出展者一覧】

ライフサイエンス分野

- 沖縄高専 生物資源工学科 助教 嶽本あゆみ
「瞬間的高圧による米粉製造システムの商業生産対応について」

医療分野

- 香川高専 電気情報工学科 教授 本田道隆
「ノイズの多い画像の線状パターン認識向上技術」
- 北九州高専 制御情報工学科 准教授 久池井茂
「ロボット制御技術を活用した医療用安全安心システム」
- 米子高専 電気情報工学科 准教授 権田英功
「未病を評価する～自己組織化マップを用いた脈波応用～」

装置・デバイス分野

- 有明高専 機械工学科 准教授 岩本達也
「足場を使用しないコンクリート壁面検査ロボットの開発」
- 香川高専 電子システム工学科 特任教授 高木正夫
「CMOS LSI 実装時の完全断線・半断線故障の検出方法」
- 熊本高専 機械知能システム工学科 准教授 湯治準一郎
「ホール素子を感圧感温デバイスとして用いた触覚センサ」
- 仙台高専 専攻科生産システムデザイン工学専攻 教授 鈴木勝彦
「回路素子自動形成型の熱可塑性樹脂基板への埋込方式技術の開発」

- 長野高専 機械工学科 准教授 岡田学
「超音波振動の共振を利用したねじの高精度締付法」

ナノテクノロジー分野

- 鶴岡高専 電気電子工学科 准教授 加藤健太郎
「LSI 高信頼化のための高速オンチップ遅延測定法」
- 富山高専 専攻科 助教 豊嶋剛司
「燃焼法による球状ペロブスカイト結晶の合成」
- 長岡高専 電気電子システム工学科 助教 床井良徳
「高効率プラズマ源によるナノ粒子の作製と低コスト化技術」

環境保全・浄化分野

- 東京高専 物質工学科 准教授 庄司良
「環境試料等生態毒性試験の簡便化と環境教育用教材開発」

低炭素・エネルギー分野

- 呉高専 環境都市工学科 准教授 及川栄作 「電離水素水の性質と応用」
- 鈴鹿高専 材料工学科 准教授 南部智恵
「高機能水素透過合膜の設計開発」

マテリアル・リサイクル分野

- 国立高専機構本部(一関高専 物質化学工学科 准教授 福村卓也)
「多段バイオディーゼル燃料合成プロセス」

高専制度創設50周年記念 平成24年度全国高専教育フォーラムを開催

国立高専機構では、東京高専を主幹校として、平成24年8月28日(火)から30日(木)までの3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に全国高専教育フォーラム(主催:国立高専機構、共催:長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学)を開催しました。

本フォーラムは、技術者教育に係る教育研究の質の向上、教育方法の開発推進のための研究・事例の成果発表や意見交換を行うことにより、高等教育機関としての教職員の資質や教育ポテンシャルの向上を目指すことを目的として平成22年度から開催しています。平成24年度は、高専制度創設50年目の節目にあたることから、本フォーラムを高専制度創設50周年記念として、高専や技術科学大学の教職員に限らず、産業界や異学校種の方々にもご案内し、3日間で延べ1,600名を超える参加者が来場しました。

初日の開会式では、小畑理事長、文部科学省大臣官房・徳久治彦政策評価審議官、長岡技術科学大学・新原皓一学長、豊橋技術科学大学・榊佳之学長による挨拶の後、基調講演として、東京大学大学院情報理工学系研究科教授・佐藤知正氏が「日本の強みを活かしたイノベーション人材教育～“もの”づくり、“こと”づくり、“しくみ”づくり教育～」と題して講演を行いました。また、実践的・創造的技術者教育の在り方を念頭に置きつつ、「産業界との連携による共同教育」をメインテーマとしてパネル討論を開催し、パネリストには、産業界から東京エレクトロンFE株式会社・石井浩介顧問、オムロン株式会社オートメーションセンタ技術部・古田勝久リーダ、株式会社エリオニクス・本目精吾代表取締役会長兼CEO、高専卒業生から高専カンファレンス事務局・大日向大地代表、パシフィックコンサルタンツ株式会社・吉田真平氏をお招きし、高専教員から函館高専・小林淳哉教授、阿南高専・原野智哉准教授が参加、共同教育の現状や将来に向けての展望など、多数の来場者とともに積極的な議論が交わされました。

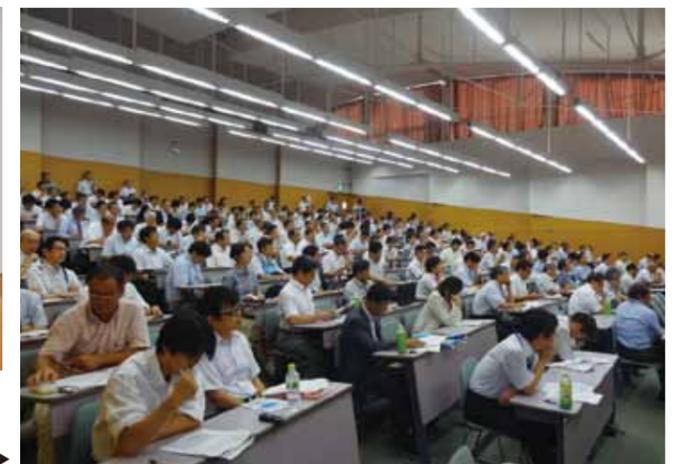
2日目は、初日に引き続き教育研究の活動発表会が実施されたほか、「知財教育の質保証と実質化ワークショップ」「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」を開催しさまざまな意見交換が活発になされ、特に、平成24年3月に策定・公開した「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえた高専教育の質の向上や各校が導入しやすい環境について意見交換を行う「モデルコアカリキュラム(試案)導入ワークショップ」や高専と技術科学大学の連携で実施されている教育実施例や検討されている新たな取組を紹介し、さらなる連携強化に向けた意見交換を行う「高専・技科大連携ワークショップ」は大変な賑わいとなりました。

3日目には、「科目間連携ワークショップ～一般科目と専門科目の連携～」において、一般科目間の連携、一般科目と専門科目の各領域での高専間の連携について議論したほか、教育研究活動発表会においてはプロジェクト部門の発表がなされるなど、全国高専教育フォーラムは盛大のうちに終了しました。

来年度(平成25年度)の全国高専教育フォーラムは、豊橋技術科学大学を会場に開催予定としており、国立高専機構では、さらなる教育の質の向上を目指し、内容の充実を図ることとしています。



▲開会の挨拶をする小畑理事長



▲会場の様子▶

高専生に対する奨学金のご寄附を いただいた企業等へ感謝状を贈呈

学生支援

国立高専機構では、平成24年3月23日(金)に開催した国立高専機構校長・事務部長会議の冒頭において、東日本大震災により被災した高専生を支援するために奨学金をご寄附いただいた企業等に対しまして、林理事長(当時)から感謝状の贈呈を行い、奨学資金として学生の支援として活用させていただき、学生がこの支援を支えに震災を乗り越え、勉学に励み社会で活躍していくことを期待する言葉とともに、謝意を述べました。

また、平成24年6月15日(金)に開催された校長・事務部長会議の冒頭におきましては、新たに奨学金をご寄附いただいた財団法人天野工業技術研究所に対しまして、小畑理事長から感謝状の贈呈と感謝の言葉が述べられました。

天野工業技術研究所は、平成20年2月に高専5年生を対象とした奨学金をご寄附いただき、平成23年度までの5年間にわたり延べ326名の学生に奨学金が支給されてきました。平成24年度には、奨学資金として新たにご寄附を受け、年間55名の学生に対し奨学金が支給されることとなりました。

改めて、ご寄附をいただいた各企業様等に対しまして、感謝申し上げます。



▲贈呈の様子(左:林理事長(当時)、右:(公財)日本国際交流センター・勝又常務理事)

奨学金名	寄付企業名等	代表者名
コマツ奨学金	(株)小松製作所	代表取締役社長 野路 國夫
DMG/MORI SEIKI 奨学金	ギルデマイスター社	CEO Ruediger Kapitza
	(株)森精機製作所	取締役社長 森 雅彦
ペイン・キャピタル高専奨学金プログラム	(公財)日本国際交流センター	理事長 山本 正
	米国人日本国際交流センター	会長 山本 正
	ペインキャピタル・アジア・LLC	会長 堀 新太郎
夢を応援基金	(株)ローソン	代表取締役 新浪 剛史
天野工業技術研究所奨学金	(財)天野工業技術研究所	理事長 小林 純一

※敬称略

第9回全国国立高等専門学校 メンタルヘルス研究集会

学生支援

国立高専機構は、平成24年11月1日(木)から2日(金)の両日、「第9回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会」を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催しました。

この研究集会は、学生のメンタルヘルスを担当する教職員のスキルアップを図るとともに、学校間の情報交換を目的とし、国立高専およびオブザーバー参加の公私立高専を合わせ計53校から、122名の教職員が参加しました。

初日には、大森美湖氏(国立大学法人東京学芸大学保健管理センター准教授)による講演「思春期・青年期の悩みの理解と関わり」が行われ、青年期の学生の特徴について触れながら、メンタルに問題を持つ学生に対する具体例が紹介されました。また、援助者自身のメンタルヘルスの重要性についても言及し、参加者が熱心に耳を傾けていました。

その後、参加者は事前に設定された5つの分科会に分かれ、それぞれの分科会において2日間に渡って事例報告や活発な討議が行われました。

また、2日目の午後には、文部科学省いじめ問題アドバイザー・藤崎育子氏(開善塾教育相談研究所相談部長、藤沢市教育委員)による、いじめの問題に関する講話「いじめをはじめとする学生の問題行動について」が行われ、深い悩みを抱えた学生に対するアプローチの仕方について、経験に基づき紹介があり、教職員の役割と責任を再確認する参加者も多く見受けられました。

参加者は、学生の心の悩みや発達障害などへの理解を一層深めるとともに、参加者相互の意見交換を通じて、高専におけるメンタルヘルスの現状と重要性をあらためて認識する有意義な研究集会となりました。



▲大森准教授による講演



▲藤崎氏による講話

国際交流室 NEWS

台湾5大学と学術交流協定を締結

国際交流室

平成24年4月25日(水)、台湾の国立聯合大學、国立高雄第一科技大學、国立台北科技大學、中州科技大學、正修科技大學の5大学と国立高専機構の間で学術交流協定を締結しました。本機構の包括交流協定としては、シンガポール・タイ・香港に続く4件目となります。

すでに、木更津高専と国立聯合大學、舞鶴高専と国立高雄第一科技大學、香川高専と正修科技大學、沖縄高専と中州科技大學が交流協定を結び活発な交流活動を実施しており、台北科技大學を追加した5大学とこのたび包括協定を結ぶことになりました。

木更津高専が招聘した訪日団は国立高専機構本部へ来訪し、協定書調印式を執り行いました。はじめに、小畑理事長から、今後具体的な活動を是非進めていきたいと歓迎の言葉がありました。続いて今回調印式に参加した国立聯合大學・李隆盛校長、国立高雄第一科技大學・陳振遠校長、中州科技大學・曾慶瀛校長代行からご挨拶をいただきました。

調印式後の歓迎会では、教育部技術及職業教育司・李司長、国立台北科技大學・姚校長が加わり、今後の具体的な交流の可能性について積極的に意見交換が行われました。

翌日には、木更津高専で学内視察や学生の発表や李校長記念講演会、翌々日には東京高専を視察しました。



▲前列左から:木更津高専・工藤校長、国立高雄第一科技大學・陳校長、国立聯合大學・李校長、小畑理事長、中州科技大學・曾校長代行、台北駐日経済文化代表処文化組・李組長



▶木更津高専にて協定書にサインする国立台北科技大學・姚校長(写真中央)と教育部技術及職業教育司・李司長(中央右)

スラバヤ電子工学ポリテクニク(EEPIS)と包括的学術交流協定を締結

国際交流室

平成24年11月15日(木)、国立高専機構は、インドネシアの国立スラバヤ電子工学ポリテクニク(以下「EEPIS」)との間で学生及び教職員の相互交流を主たる目的とした包括的学術交流協定を締結しました。EEPIS・Dadet学長が来日し、小畑理事長の出席により名古屋で調印式を行いました。

調印式には、同日、名古屋大学において開催された日本インドネシア大学長会議に出席のため来日中のNuh教育文化大臣(EEPIS第2代学長)がご臨席されました。

EEPISは、昭和62年から国際協力機構(JICA)の政府開発援助(ODA)に基づき数多くの全国国公立高専教員が長期・短期専門家として派遣され、多大の技術協力を行った高等教育機関です。平成24年9月からはEEPISにインドネシアのポリテクニクで唯一大学院が設置され、豊橋技術科学大学が教員養成(博士号取得等)について支援を行っています。

このような歴史的友好関係、背景から、EEPISと国立高専との間で双方の交流を更に活発にすることで合意したものです。

今回で国立高専機構の包括的学術交流協定は、シンガポール、タイ、香港、台湾に続く5件目の締結となり、全国51国立高専の特色を生かして、学生及び教職員の学術・文化交流、共同セミナーやシンポジウム等の企画・実施など、積極的な活動を展開してまいります。



▲協定書に調印する小畑理事長(右)、EEPIS Dadet学長



▲調印式を終わりNuh大臣(右から3人目)を囲んで右から木谷理事、小畑理事長、Dadet学長、Djoko 高等教育局長、京兼理事

国立高専教員が香港職業訓練協議会(VTC)を視察

国際交流室

国立高専機構は平成24年5月29日(火)から30日(水)、包括交流協定校である香港職業訓練協議会(Vocational Training Council=VTC)と今後交流を深めるため、京兼理事を団長として国立高専教員28名がVTCの機関の1つである Hong Kong Institute of Vocational Education (IVE)を訪れキャンパス等の視察を行いました。

初日には、香港の教育制度やVTCの教育システム・学科等の説明を受け、応用化学、IT等の設備のある Chai Wan 校および Tsing Yi 校を見学しました。説明に国立高専教員は耳を傾け、熱心にIVEの教員に質問をしている姿が見られました。

2日目には、国立高専教員によるVTCと希望する交流プログラムのプレゼンテーションを行い、グループに分かれ、VTCの教員と双方で希望する交流プログラムの情報交換を行いました。最後に電子電気系学科のある Sha Tin 校を見学し、全視察日程を終了しました。

帰国後も参加した教員とVTCの教員の間で、交流プログラムの実現に向けて個別で調整を行っており、一部の高専では実際に交流を始めています。この視察は、各国立高専とVTCの、双方に対する理解が深まり今後もより親密な関係を構築する良い機会となりました。

左からVTC・陳副執行幹事、京兼理事 ▶



アジアの学生の高専体験プログラム2012を開催

国際交流室

国立高専機構では、平成24年9月10日(月)から14日(金)に富山高専において、アジア地域の学生を迎えた「アジアの学生の高専体験プログラム2012」を開催しました。

この取組は「留学生30万人計画」に基づいた留学生の受入れの推進を図り、高専の特徴を活かした実践的技術者育成の知的国際貢献に資する目的のもと、アジア地域の学生を招聘し、高専教育及び学生寮における実生活を通じた高専生活の有効性を体験してもらうことにより、高専に対する理解を深めてもらうためのプログラムです。

参加国として、中国・韓国・フィリピン・マレーシア・インドネシア・スリランカ・タイ・ベトナム・モンゴルの9カ国から40名の参加者があり、各国の学生によるそれぞれの国や地域のプレゼンテーションを皮切りに、高専における模擬授業やものづくり体験授業に加え、プログラムの一環として地元企業の工場見学(YKK株式会社・株式会社不二越)や国の特別天然記念物(天然保護区域)及び特別名勝指定されている黒部峡谷の見学等を実施しました。

また、期間を通して学生や教員が英語による交流を図り、異文化コミュニケーションの場としても大変有意義な時間を過ごしました。



▲異文化体験(茶道)



▲留学生によるプレゼンテーション



▲ものづくり体験授業の様子

第6回国際工学教育研究集会(ISATE2012)を開催

報告 北九州高専 添田 満教授

第6回国際工学教育研究集会(The 6th International Symposium on Advances in Technology Education, ISATE2012)が、国立高専機構とシンガポールのポリテクニク5校の主催で平成24年9月19日(水)から21日(金)にかけて、北九州高専を主管校として北九州市・北九州国際会議場で開催されました。

初日19日は、弦楽五重奏の演奏で国内外からの参加者を迎え、開会式での北九州高専・塚本寛校長の開会挨拶を皮切りに研究集会がスタートしました。開会式に続き、株式会社安川電機・野田執行役員・技術開発本部開発研究所長が基調講演を行い、その後、4会場に分かれてオーガナイズドセッションと一般セッションでの口頭発表やワークショップを行いました。

翌20日は、シンガポール大使館・CHUA参事官による基調講演を行った後、分科会に分かれての口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルディスカッションを行いました。

ISATE2012では「実践的技術者の育成を目指して」をメインテーマに掲げ、2件の招待論文発表と73件の論文発表があり、また、4件のワークショップを実施しました。この研究集会には、シンガポール・香港・日本から140名の教育関係者が参加し、それぞれの会場で技術者教育に関する活発な議論と情報交換が行われました。

また、大会の前日には北九州高専のキャンパスツアー、21日には新日本製鐵株式会社八幡製鐵所の工場見学と門司港レトロ地区観光の教育ツアーを実施しました。

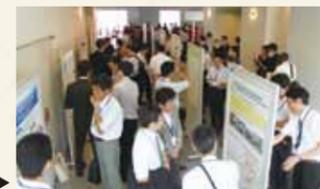
ポスター発表の様子 ▶



▲弦楽五重奏の様子



▲安川電機・野田開発研究所長による基調講演



国立高専機構主催平成24年度海外インターンシップ第2次日程(春季)派遣者を決定

国際交流室

国立高専機構主催の海外インターンシップは平成24年度で第5回目を迎えました。第1回の平成20年度から数え、派遣学生数は累計93名、協力企業は16社にのぼります。本プログラムを経験した学生からは、視野が広がり、ものの見方が大きく変化したとの声が多く寄せられています。また、協力企業も昨今の厳しい経済状況の中、多くの企業が継続して学生の受入れにご協力をいただくことから、企業側の高専生に対する高い評価と期待がうかがえます。

平成24年度第2次日程(春季)に参加する学生17名は、平成25年1月28日(月)～29日(火)に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて事前研修に参加し、国際的リーダー像、社会人の素養・危機管理、異文化コミュニケーション、英語プレゼンテーション演習等を学び、また受入企業のご担当者にもご参加いただき現地に関するオリエンテーションを行いました。



▲第2次日程(春季)事前研修

平成24年度派遣概要

【第1次日程(夏季)】

- 応募者数: 26名(20高専)
- 派遣者数: 7名(5高専)
- 新規協力企業: 1社

NO	受入協力企業及び派遣期間	派遣国	派遣人数	派遣者所属高専	備考
1	(株)荏原製作所 平成24年8月21日～9月9日	英国(スコットランド=新規)	3名	群馬、富山、久留米	
2	(株)カネカ 平成24年9月2日～9月23日	マレーシア	2名	秋田、群馬	
3	オーエスジー(株) 平成24年8月20日～9月8日	中国(上海)	2名	松江、久留米	新規

【第2次日程(春季)】

- 応募者数: 23名(18高専)
- 派遣者数: 17名(14高専)
- 新規協力企業: 1社

NO	受入協力企業及び派遣期間(予定)	派遣国・地域	派遣人数	派遣者所属高専	備考
1	前田建設工業(株) 平成25年3月4日～23日	中国(香港)	3名	岐阜、香川、北九州	新規
2	東洋エンジニアリング(株) 平成25年3月3日～23日	マレーシア	2名	沼津、熊本	
3	ツネイシホールディングス(株) 平成25年3月3日～23日	フィリピン	3名	八戸、仙台、広島商船	
4	ヤマハ発動機(株) 平成25年3月3日～24日	ベトナム	3名	茨城、富山、新居浜	
5	(株)小松製作所 平成25年3月4日～22日	インドネシア	2名	沼津、久留米	
6	TANAKAホールディングス(株) 平成25年3月3日～23日	シンガポール	2名	香川、高知	
7	オーエスジー(株) 平成25年3月3日～24日	台湾=新規	2名	木更津、北九州	

第2回「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」に関する国際シンポジウム(ISTS2012)を開催

国際交流室

国立高専機構と、その協定校であるタイのキングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)の共催により、専攻科生を対象とした学生主体の国際シンポジウム「International Symposium on Technology for Sustainability (ISTS) 2012」が平成24年11月21日(水)～24日(土)にタイ・バンコクのホテル Swissotel Le Concorde Bangkok を会場に開催されました。第2回目である今回は、長岡技術科学大学および豊橋技術科学大学が共催として参加しました。

初日のオープニングセレモニーでは、KMITL・Monai Krairiksh 副学長及び木谷理事が主催者挨拶を述べた後に、在タイ王国日本大使館の青木伸也広報文化部長が祝辞を述べられ、続いて福島高専のOBである早稲田大学・白鳥則郎教授(東北大学名誉教授)、Prasit Prapinmongkolkarn Chulalongkorn 大学名誉教授、KMITL・Suchatvee Suwansawat 工学部長が基調講演を行いました。

また、パンケットでは、KMITL・Tawil Paungma 学長、今年度幹事校である仙台高専・内田龍男校長(ISTS2012組織委員長)が挨拶をしました。続いて本年1月に国立高専機構が包括交流協定を締結した香港職業訓練協議会(Vocational Training Council = VTC)のAcademic DirectorであるMichael Fung氏から、来年度のISTS2013をVTCが設置するHong Kong Institute of Vocational Education (IVE)のTsing Yiキャンパスで平成25年11月に開催するとのアナウンスがあり、同校の紹介を行うとともに来年度も各国から多くの参加を期待する旨の挨拶がありました。

全149件の発表論文のうち、45国立高専から94件(うち教員2件)の参加がありました。参加した学生は、英語での研究発表を堂々と行っており、この発表に対する意欲とこの日を迎えるまでの努力がうかがえました。今回の発表は、参加学生にとって海外の学生や他高専・大学の学生の英語による発表に触れる貴重な機会となりました。

また、23日には、KMITLに新たに設置された国立高専機構のリエゾンオフィス開所式が行われ、参加者は記念すべきセレモニーに参加することができました。続いてKMITLの学生の案内によるキャンパスツアーを行いました。

最終日のテクニカルツアーでは、アユタヤの歴史的な建築を見学し、学生同士の親睦も深めることができ、大変有意義な4日間となりました。

本シンポジウムは、今年度幹事校である仙台高専関係者並びにKMITL関係者の多大なるご尽力により成功裏に終了しました。



▲ISTSの案内板



▲主催者挨拶(木谷理事)

KMITL(タイ)にリエゾンオフィスを開設しました

国立高専機構は、協定校であるタイのキングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)のキャンパス内に同校との交流拠点として、リエゾンオフィスを設置することとなり、平成24年11月23日(金)、開所式を行いました。

学生主体の国際シンポジウムISTS2012開催期間中であつた開所式当日は、シンポジウム参加学生等も出席し大変盛大に執り行われました。

本オフィスは、今後KMITLとの包括学術交流協定に基づき、交流活動の拠点として、高専の同校における広報活動や、高専における学生・教職員の交流活動の支援等を行いますので、積極的に活用してください。なお、平成24年度に引き続き、25年度は下記のとおり指定の期間において在外研究員を派遣し、同オフィスの業務についてもご協力をお願いしております。

- 平成25年度派遣予定の在外研究員
鶴岡高専 内海 哲史 助教(7月～9月)
長野高専 堀口 勝三 教授(10月～12月)

参考

- 平成24年度派遣在外研究員
久留米高専 黒木 祥光 准教授(7月～11月)



▲リエゾンオフィス内部



リエゾンオフィス内部▶



2013年度国立高等専門学校第3学年編入学試験(外国人対象)を実施

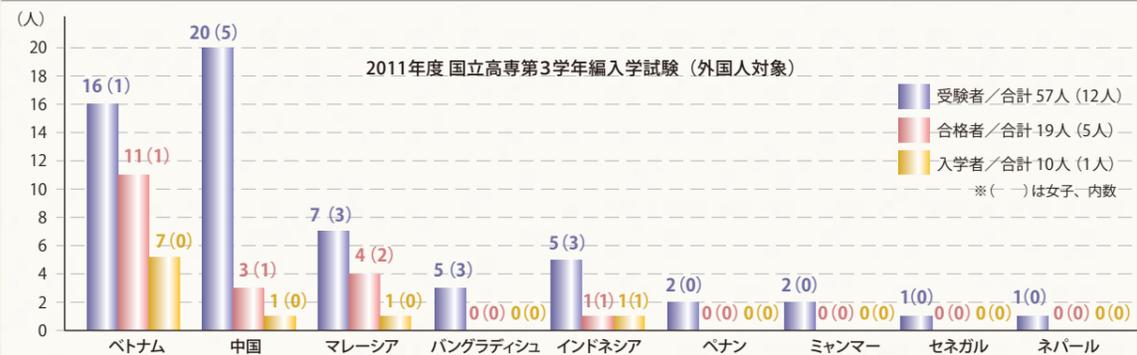
国際交流室

国立高専機構は、外国人留学生を対象とした第3学年編入学試験を、国立全51高専が参加して実施します。

【入試概要】

- ◆願書受付期間 平成25年1月7日(月)～10日(木)
- ◆面接試験 平成25年1月25日(金)
- ◆合格発表 平成25年2月15日(金) 国立高専機構ホームページ上にて

【過去の入試データ】



日本学生支援機構主催2012年度日本留学フェア等に参加

国際交流室

平成24年7月14日(土)から15日(日)に日本学生支援機構主催平成24年度外国人学生のための進学説明会に参加し、高専への編入学を希望する留学生に対して説明会を行いました。

14日は大阪会場において25名、15日は東京会場において51名の留学生や日本語学校の関係者の訪問を受け、高専制度や授業料等の基本的な質問から試験内容等の具体的事項について説明を行いました。

また、今年度は日本学生支援機構主催2012年度日本留学フェア(ベトナム)にも初めて参加し、11月24日(土)ハノイでは42名、25日(日)ホーチミンでは34名の日本留学を希望する学生の訪問を受けました。翌26日(月)はドンズー日本語学校を訪問し、約80名の渡日前の学生に対し、世界的にも類を見ない、ものづくり教育による実践的技術者を育成する高等教育機関である高専について実績等を交え、広報活動を行いました。

今後は、高専への私費留学生の拡大を図るため、国内における説明会にとどまらず、海外に対しても高専制度のすばらしさを発信するとともに、留学生の受入れ拡大を目指します。



▲日本留学フェア(ベトナム)



▲日本留学フェア(ベトナム)



▲外国人学生のための進学説明会(東京)